

# 乙 頁

第90号 通巻16巻第5号  
1997年1月31日 発行

守山市立埋蔵文化財センター  
☎0775-85-4397

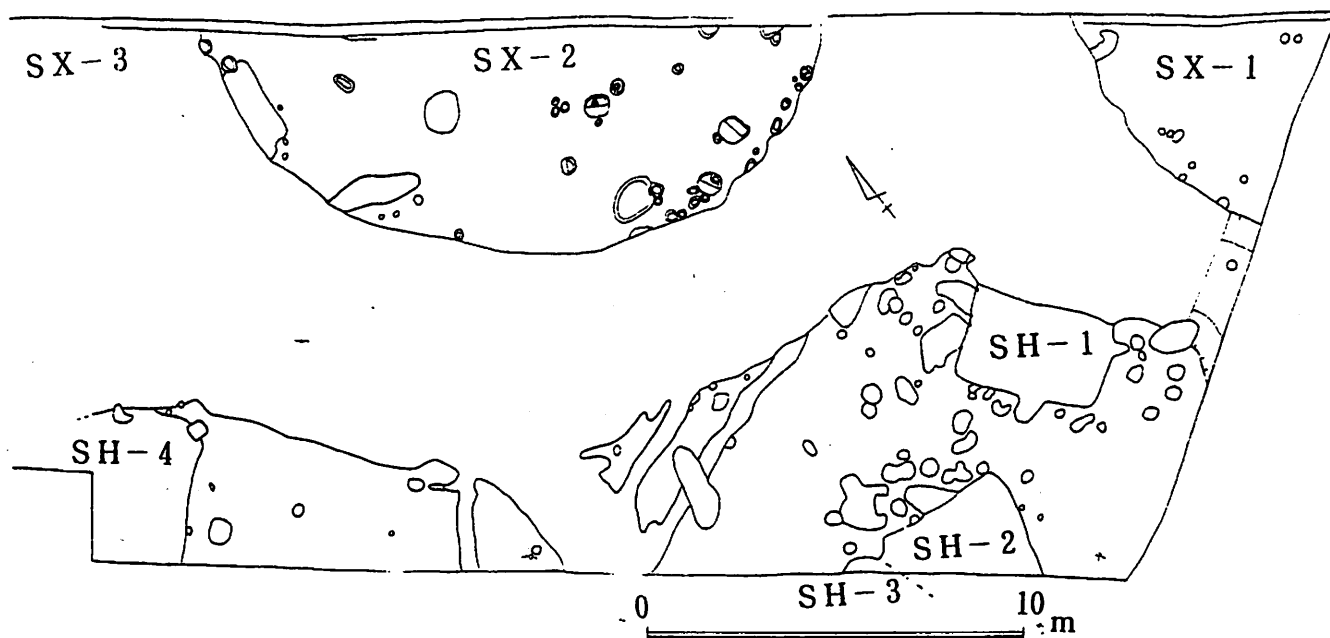
☎524-02  
守山市立服部町2250番地

## 発掘調査だより

### 1、吉身北遺跡（A地点）の調査

昨年12月から勝部町字松塚の水田地において、店舗建築に先立ち1200㎡を対象に発掘調査を実施しています。現在、約600㎡を遺構検出し調査を進めています。現在までに、古墳跡3基、竪穴住居4棟、溝3条、柱穴多数を検出しています。いずれも古墳時代中期から後期にかけて営まれた遺構で、切り合い関係からみて竪穴住居などの居住空間が先行して存在し、その後古墳がつくられ墓域となったとみられます。竪穴住居は一辺4～5m程の方形プランの住居で、出土遺物からみて5世紀中から6世紀初頭の時期とみられます。SH-3からは製塩土器が出土しています。古墳は円墳2基と方墳1基と考えられ、SX-2は6世紀の第1四半期の築造と推定されます。SX-2は直径約18mの円墳で、幅約6mの周溝を有しています。

SX-3の西側にも墓群がのびていることから、今後さらに埋没古墳の数が増えるものと想像されます。（伴野）

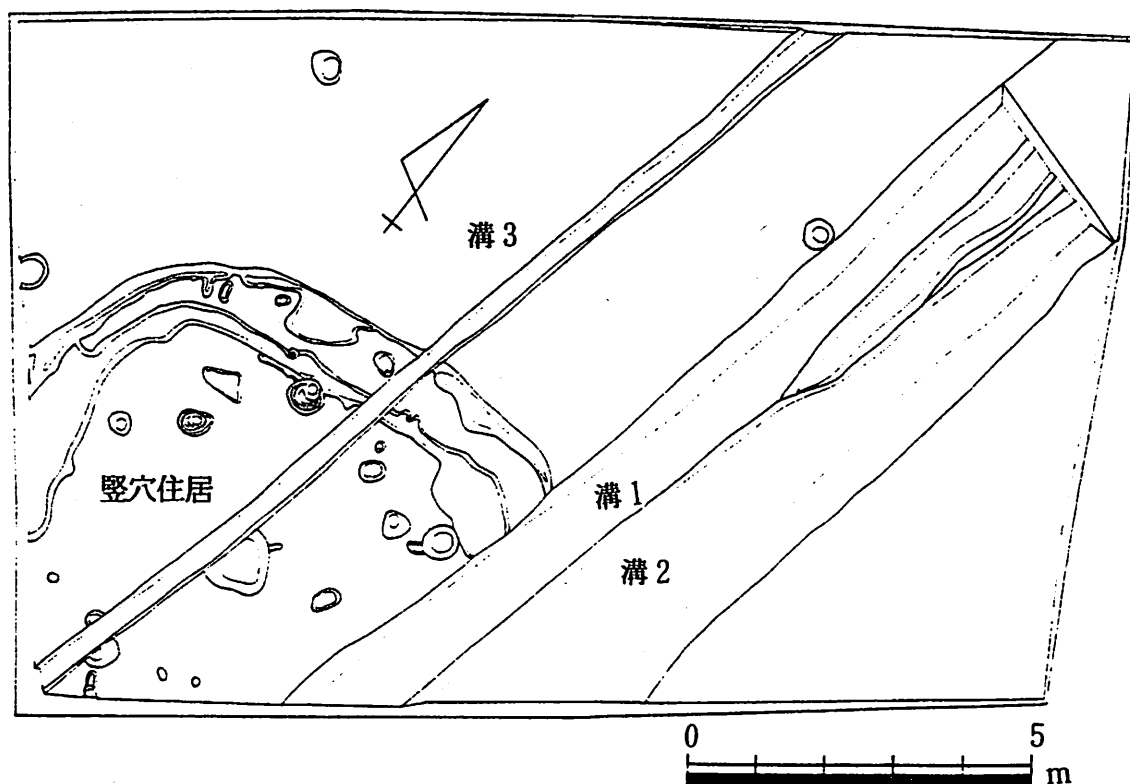


### 2、伊勢遺跡（36次）の調査

伊勢町字大將軍において、2件の個人住宅建築に先立つ調査を11月13日～26日までの期間、実施しました。約400㎡の対象地では、竪穴住居1棟と溝3条、ピット3穴を検出しました。

竪穴住居は調査区の南側で見つかり、さらに外側へ広がっていくため、全体はよく分かりません。床面までは深さ15cmを測ります。ほぼ中央には炭と焼土が堆積した土壌があり、炉跡と考えられます。壁面に沿って周壁溝が走り、1 m内側にも周壁溝が走っています。出土した土器の位置から考えて、この竪穴住居は拡張した住居と思われ、弥生時代後期の時期と考えられます。住居の隅がやや鈍角であることから、付近で確認されている五角形住居の可能性もあります。

溝3条のうち2条は切り合って平行に走り、出土遺物から中世の溝が近世の溝に切られていると考えられます。(畑本)



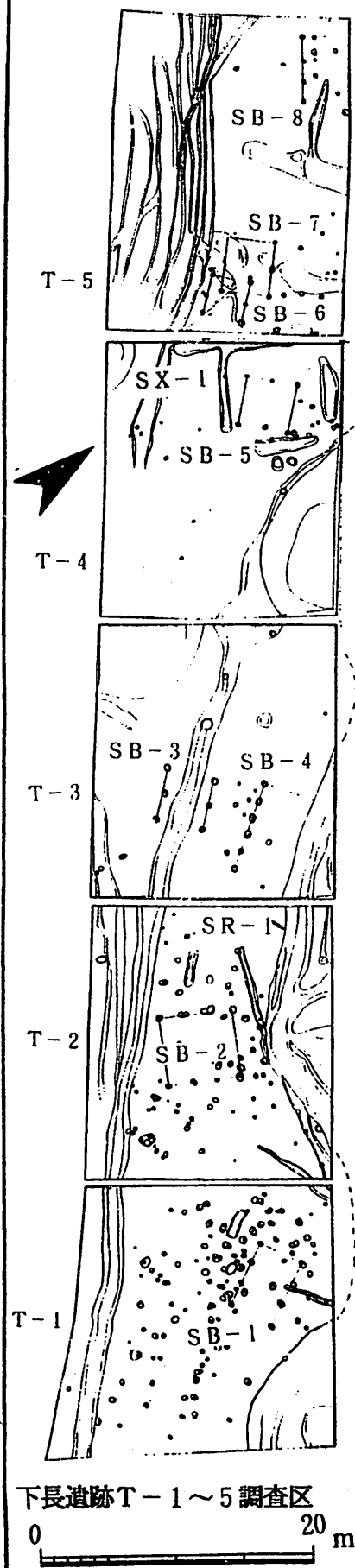
### 3、伊勢遺跡（第37次）の調査

伊勢町の土地区画整理内において、共同住宅建築に先立つ調査を11月14日～21日に実施しました。調査区を横断する溝（SD）3条と土壌2基、ピット2穴を検出しました。SD-1は灰黄色粘砂で埋まり、土師質の羽釜が出土しており、SD-3では黒褐色土で覆われ、古墳時代前期の甕や壺が出土しました。SD-2は出土遺物は有りませんが、SD-3を切っているため、少し新しい時期の溝といえます。(畑本)

### 4、伊勢遺跡（第38次）の調査

36次調査地の南50mの地点で、共同住宅建築に先立ち、11月20日～12月7日までの期間、調査を実施しました。ここでは溝5条と土壌1基を検出しました。溝はそれぞれ切り合っていて、古墳時代前期から後期の溝と思われます。土壌は不定形で鎌倉時代の土師器片が出土しました。(畑本)

## 5、下長遺跡の調査



古高町の工業団地北西側の水田地で実施している下長遺跡の発掘調査は10月下旬から着手して、対象面積約 8,000㎡のうち、約 3,000㎡の様子が明らかになっています。今回はそのうち、南西側に設けたT-1～5の調査成果について報告します。

まず、T-1～4調査区北東端では、下長遺跡の中央部を南北に貫いている旧河道（SR-1）を検出しました。蛇行しながら流れていたらしく3か所で断片的に検出しました。灰色粘土の下層に厚い何層も有機質層が堆積していて、この土層から多量の遺物が出土しています。その種類は多様で、土器、木器の他に、金属製品、石製品があります。土器は古墳時代前期の土師器が大多数を占め、木器は農具や建築部材、そして管玉などの石製品が出土している他、金属製品として、銅鏃、素文鏡が出土しています。いずれも、出土することの少ない貴重な遺物です。特に、素文鏡は直径10.6mm、薄さ0.9 mmと大変小さい鏡です。紐を作りだしていますが、紐通しの穴は風化して痕跡だけになっています。

この旧河道は、西岸近くでも約1mの深さですが、中央部はもっと深なり、多くの遺物が出土するものと考えられます。

次に、T-1～4調査区の旧河道南西側の平地は河道に向かって緩やかに傾斜していて、ここからは多数の建物柱穴を検出しています。現在、7棟の掘立柱建物（SB-1～7）を確認していて、東西方向を向くものとそうでないものの2種類に分けることができます。建築時期の違いと思われますが、両者とも古墳時代の建物と考えられます。

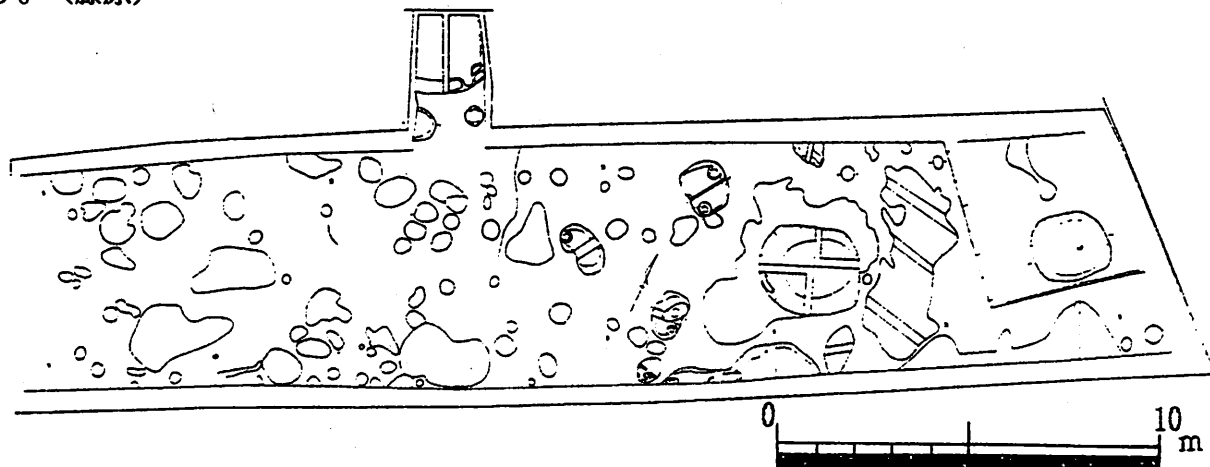
また、T-4北東半からT-5調査区は旧河道から遠のくため全域平地で、掘立柱建物、土壇、溝の他に、方形周溝墓（SX-1）を検出しました。一辺 8.5m、深さは40cmの規模を測ります。出土遺物がないため、詳しい時期は分かりませんが、掘立柱建物柱穴に切り込まれていることからそれよりも古い時期であることは分かります。

以上が1～5調査区の調査成果のあらましです。今後、旧河道の中央部が調査の対象になってきますが、貴重な遺物が出土することも十分考えられます。この「乙貞」で逐次報告いたします。（岩崎）

## 6、吉身北遺跡（B地点）の調査

今回の調査は、守山市勝部町北十三地先において勝部吉身線の都市計画道路建設に先立って、発掘調査を実施しています。調査面積は、約800 ㎡で、現在、その半分を調査中です。

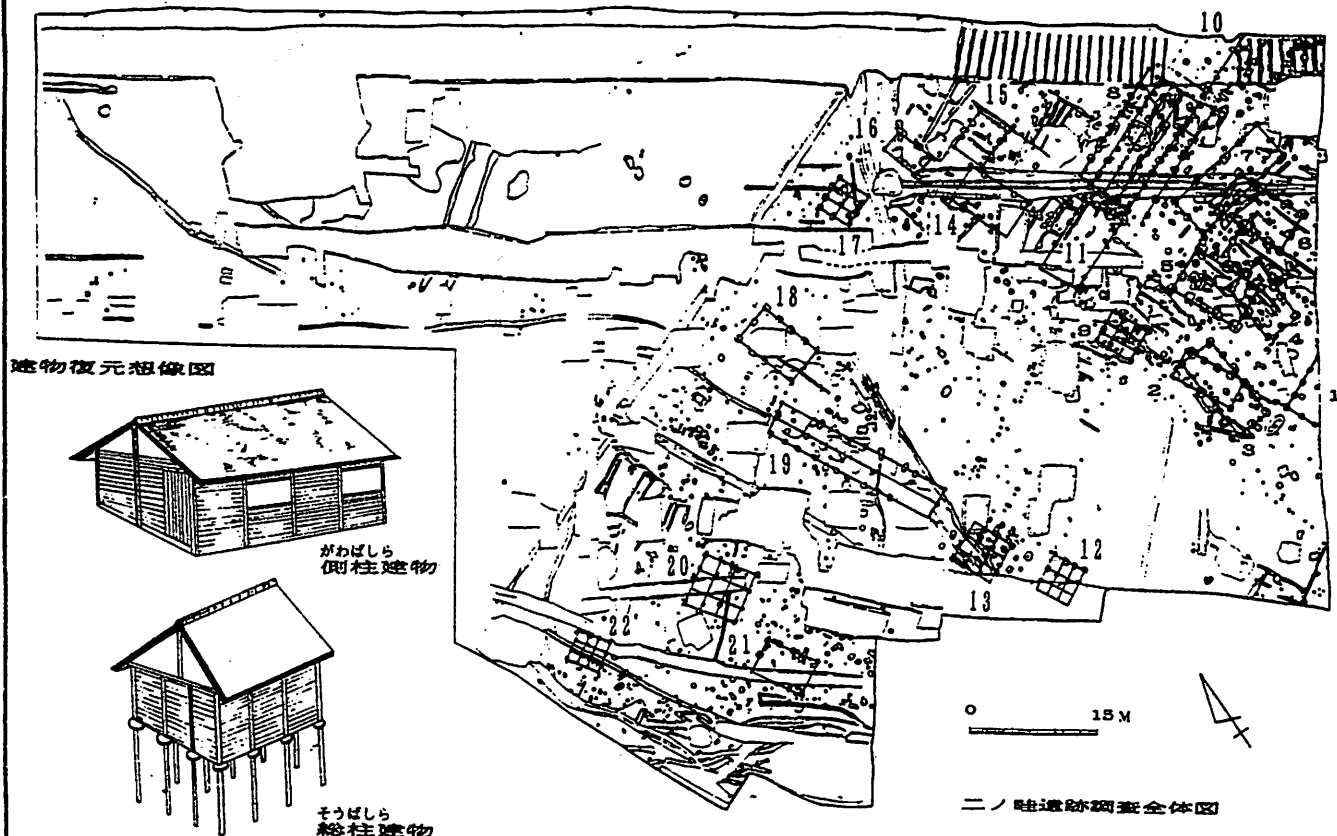
調査地からは、多数の柱穴や土壌が検出されました。時期は出土した土器から中世のものと考えられます。（藤原）



## 7、二ノ畦遺跡（第9次）の調査

平成8年2月から約14,000㎡という広域を宅地造成工事に先立って発掘調査を行ってきましたが、本年2月をもって終了することとなりました。今回の調査で目を引くのは、調査区の南側で見つかった奈良時代後半代の建物群です。検出された建物は、いずれも掘立柱建物で4～5間×2間の側柱建物や3間×3間の総柱建物、それと2～3間×10間以上の長屋の様な建物などがあり、合わせると20棟以上が確認されました。

見つかった建物群は軒を同一方向にそろえて整然と建てられていて、また建物の設計に使われた寸法も、唐の大尺（平城京内の建物などに使用された寸法）が使われた可能性があります。これらの建物群の周囲には、外界と内側を結界するような区画溝が巡らされています。区画溝は、L字に折れ曲がり、さらに西側の距離がほぼ2町にあたることなどは、この遺跡がかなり計画的に造営されたものであると言えます。では、このような建物群は一体どの様な場所だったのでしょうか。奈良時代の一般的な集落としては、この遺跡から出土した土器には、煮たきなど調理に使う器の種類が少なく、また遺跡の成立が8世紀になって突然誕生し、9世紀には徐々に衰退することなどは、ここに一般農民は生活していたとは考えにくいようです。これまで調査を進めていくなかで考えていたのは、例えば①豪族の居館、②郡衙（野洲郡の役所）の出先機関、③郷衙（馬道郷？の役所）、④野洲川の渡し場所に設けられた物資流通の拠点、などいくつかの考え方を挙げられますが、現時点では明確にできず、今後は益須寺遺跡、東山道、式内社など周辺の遺跡との関連もふまえて評価を考えていきたいと思っています。（川畑）



## 8、阿比留遺跡の調査

小島町集落の南側で宅地造成工事に先立ち、約3,000㎡を対象に発掘調査を実施しています。これまでに、古墳時代後期の竪穴住居や掘立柱建物をはじめ、土壌、溝、旧河道などが見つかっています。遺物は旧河道などから多量の土器と木製品が出土しています。出土土器の中には韓式土器や初期須恵器など、渡来系の人々との関係が考えられるものも含まれており、遺跡の性格を考える上で注目されます。  
(小島)

## 9、金森東遺跡（第12次）の調査

10月下旬から守山町で土地区画整理に先立ち発掘調査を進めています。調査対象面積8000㎡のうち約2000㎡が終了しました。現在までに弥生時代から古墳時代にかけての竪穴住居7棟と掘立柱建物1棟、中世以降と思われる耕作に関する遺構を多数検出しています。住居址の平面プランはいずれも隅丸方形ですが、一辺の長さは4.6mのものから6.5mのものまでと規模は様々です。また、中央に炉を持つタイプから、明確に炉の存在を認定できないもの、カマドを持つものや、周壁溝を巡らせるもの、巡らさないものなど、内部の構成要素にも違いが見受けられます。中でも北辺東寄りにカマドを持つ住居は土製支脚（甗など煮炊きを使う土器の底を支えるためのもの）を有しており、床面を精査したところ、カマドの存在が予想される箇所の周囲に直径3cm～5cm程の小ピットが巡っているのが確認されました。この

小ピットに関しては、カマドを備えつけるにあたってその骨組みのようなものを組み立てた際のものという可能性がまずひとつ考えられると思われますが、正確なところは定かではありません。

次に掘立柱建物ですが、東西3間(約3m)×南北2間(約2.5m)の規模を測ります。<sup>ちゅうけつ</sup>柱穴内部からの出土遺物がないため時期を決めるには至りませんでした。今後は集落の中心にむかって調査を進めていきますので、少しずつ全体の様子が明らかになってくることと思われます。(小出)

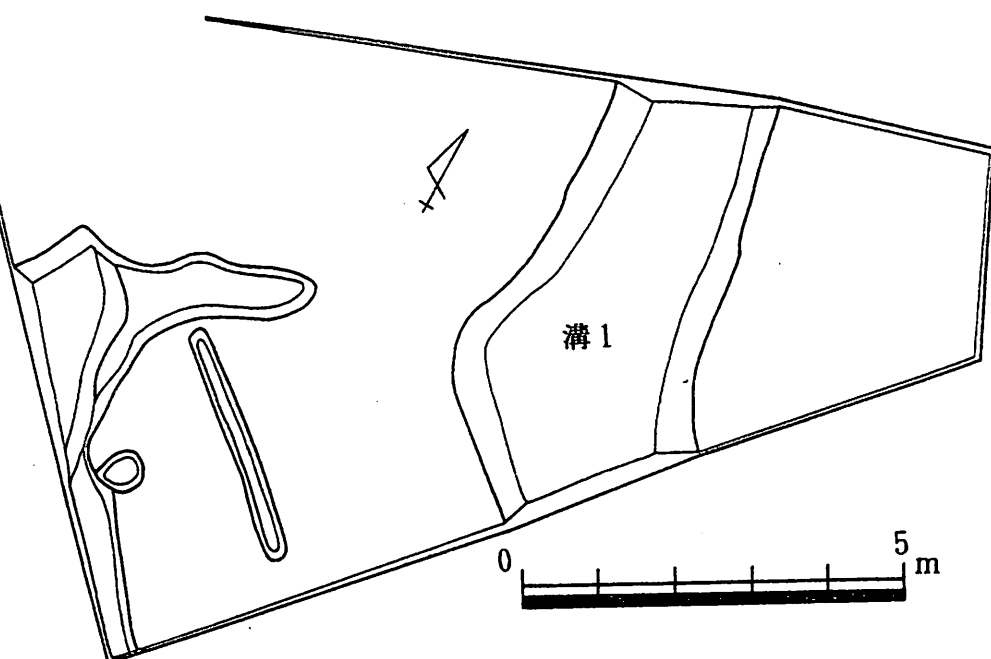
#### 10、下之郷遺跡(第24次)の調査

下之郷町集落の東端で、農用倉庫新築に先立つ調査を1月9日～13日までの期間に実施し、溝2条と土壇1基、ピット1穴

を検出しました。溝1は北壁から南へ伸びて途中、やや東へ方向を変える溝で、幅2.2m～2.7m、深さ1.1mを測ります。遺物は弥生時代中期の高杯、甕、壺などが出土しました。

この溝の上層より、茶<sup>ちや</sup>褐色土が薄<sup>かっしょくど</sup>く堆積<sup>たいせき</sup>し、その下には黄褐色粘砂<sup>おうかっしょくねんさ</sup>が埋

まって溝底近くにスクモ層があり、下之郷遺跡の環濠<sup>かんごう</sup>とは違った堆積状況なので、環濠ではなくその外側で何らかに使用された溝と考えられます。(畑本)



#### 11、吉身西遺跡(第74次)の調査

前号でお知らせした後、第3、第4調査区と調査を続けてきましたが、第3区では上下2面の遺構の広がりが確認されたため、まず上層に取りかかると同時に、第4区も調査を進めることにしました。第4区は第1～3区の東部分の約500㎡で、3分の1が攪乱<sup>かくらん</sup>を受けていた他は隣接<sup>りんせつ</sup>する調査区から続く遺構を確認しました。

今回は特に第3区の上層において見られた大型掘立柱建物についてお知らせします。この建物はN-5°-Eの方向で3間(7.2m)×6間(13.4m)で約96.5㎡の規模を有す、大変大きなものです。時期としては7世紀末から8世紀初めと思われます。その南にはこの建物とコの字配置をなす、掘立柱建物が存在します。他、下層には竪穴住居6棟存在しますが、掘立柱建物に切られていることから、それ以前

の時期に属するものと考えられます。上層の調査中に滑石製白玉<sup>かっせきせいすだま</sup>、滑石チップなどがかなりの量で見つかり、下層の竪穴住居に何らかの関係があるのではないかと考えています。

現在下層の調査を行っていますが、次号において詳しくお伝えできることと思います。(山中)

#### 12、吉身西遺跡(第79次)の調査

今回の調査は、守山6丁目字高ノ後1182番地において、個人住宅建築に先立ち実施しました。

調査により、東西にのびる溝が2条見つかりました。

SD-1は幅約4m、深さ80cmの規模で、3条の切り合いが確認されました。溝からは、古墳時代後期から近世にかけての遺物が見つかり、最終的には昭和30~40年代に、河川<sup>かせん</sup>の付け替えのため、一気に埋められたものと考えられます。

SD-2については、遺物が見つかっていないため、時期は不明です(藤原)

#### 13、吉身西遺跡(第80次)の調査

守山町内において12月9日~19日にかけて、約100㎡発掘調査を実施し、溝4条(SD-1~4)、ピット数穴、竪穴住居1棟(SH-1)を検出しました。

SD-1~3は中世以降の耕作痕<sup>こうさくこん</sup>と考えられます。SD-4は幅2.2m、深さ10cmの溝で、出土遺物から平安時代の溝と考えられます。

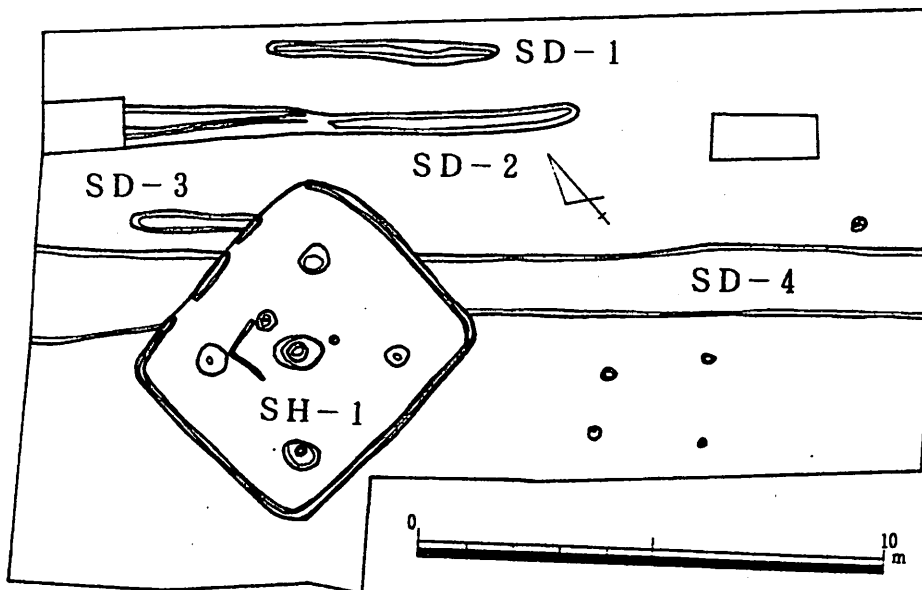
SH-1は一辺6.1m×5.5mで、床面までは深さ35cmを測り、中央には炭が入った土坑

があり炉跡<sup>ろあと</sup>と考えられます。(上図は最終段階のものであり、本来はSD-4がSH-1を切っています。)

周壁溝<sup>しゅうへきこう</sup>が壁面に沿って巡っています。また炉の近く<sup>まじき</sup>に間仕切り溝と考えられる溝がL字状に入っており竪穴住居の生活空間を考える上で1つの指標になるものと考えられます。時期は、出土遺物から弥生時代後期と考えられます。(中村)

#### 14、塚之越遺跡(第11次)の調査

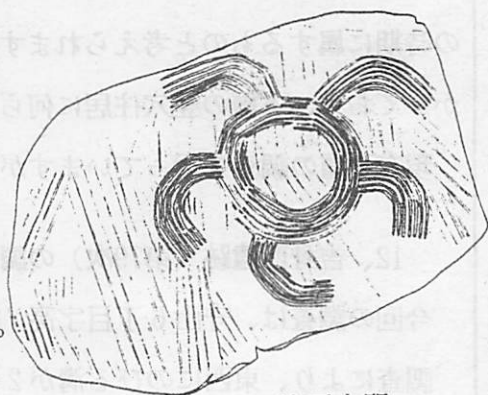
調査は開始してから1年以上たち終盤<sup>しゅうばん</sup>にさしかかりました。今後來年度初頭まで継続<sup>けいぞく</sup>する予定です。今回は、調査区の南端で見つかった旧河道より出土した絵画土器<sup>えがどき</sup>について報告します。





出土遺構である旧河道の上層から弥生時代後期の土器と木製品が多数出土し、この遺物の中には数点の記号文様が描かれた土器とともに図のような絵の描かれた土器が出土しました。これは壺の肩部にクシ状の工具によって描かれています。この絵は太陽をイメージしているのでしょうか、また亀の形を抽象化したものでしょうか。いずれにせよ弥生人の精神生活をさぐる上で重要です。

(佐々木)



絵画土器



埋蔵文化財センター友の会会員募集について

埋蔵文化財センター友の会では、平成9年度の会員を募集しています。

歴史や埋蔵文化財に興味のある方、郷土の文化財について知りたいと思っておられる方は、この機会に是非ご入会下さい。ご入会をお待ちしています。(申込み期限は3月末までです。)

会費は年額2,000円です。申込み・問い合わせは守山市立埋蔵文化財センターまで!

☎85-4397、有線は速野38112

(編集後記) 暦の上ではもう春だというのに、まだまだ寒い日が続きます。スキーヤーには嬉しい雪も私たち現場をやっているものにとっては、とても辛いものです。古代の人にとっては、現代の私たち以上に、天候は自分たちの生活を左右するものだったのではないのでしょうか? (M. N)